



加耶の鉄と倭の南北市羅
The Iron and Rice Trade between Kaya and the Japanese Archipelago

宣石悦

はじめに

①加耶の対外交渉

②倭の対外交渉

③鉄交易においての対馬国・一支国の南北市羅

むすび

【論文要旨】

本稿では、倭と加耶との交易過程における対馬国と一支国の果たした役割を中心に考察した。3世紀を前後として加耶地域にあった安邪国と狗邪国は、周辺の国々より有力な国であった。これらの国は大河と海岸が接する河口に位置し、交易にとって便利であった。加耶地域において、これらの国は多くの国と連合し交渉圏を成立させ、鉄素材を媒介として楽浪郡・帶方郡及び倭との交渉を主導した。特に狗邪国は帶方郡から倭へ行く路程にあったので、交易を通じて繁栄した。

対馬国と一支国は加耶地域と日本列島の間に位置していた。それらの国では常に食糧が足りなかつたが、土産物による仲介貿易を通じて自活することができた。また、これらの国は仲介港としての役割も果たしていた。これによって日本列島の国々は加耶の鉄素材を手に入れることができ、加耶もまた不足する食糧や物資を購入することができたのである。4世紀を前後する諸国統合戦争の展開によって、鉄に対する需要は増大した。4世紀末、百濟・加耶・倭の同盟勢力と高句麗・新羅との戦争以後、倭国の新羅攻撃に際して、対馬国と一支国は軍事基地としての役割も併せもつこととなった。